



宇都宮商店街めぐり 第16回

みはし通り商店会

「ご案内マップ」をツールに、 より積極的なPRを行っていきます

宇都宮二荒山神社と城址公園をつなぐ歴史軸、みはし通り。平成17年に装いも新たに変わってから、道を行き交う人も増えつつあります。

今年10月に『みはし通り商店街ご案内マップ』を作成した、みはし通り商店会。小林皓二会長（楸クニトミ印刷代表取締役）は「これまで商店会らしいPR活動をあまりしてこなかったのも、みはし通りをお客さんに広く知っていただくことが、第一の目的です」と言います。

みはし通りの「みはし」は、地図にもある「御橋」からとられました。昔、宇都宮城主が二荒山神社に参詣する際に渡った事からつけられた名前です。

「この商店街は、二荒山神社と宇都宮城址公園とを結ぶ歴史軸にあります。マップも、宇都宮の古



みはし通り商店街ご案内マップ

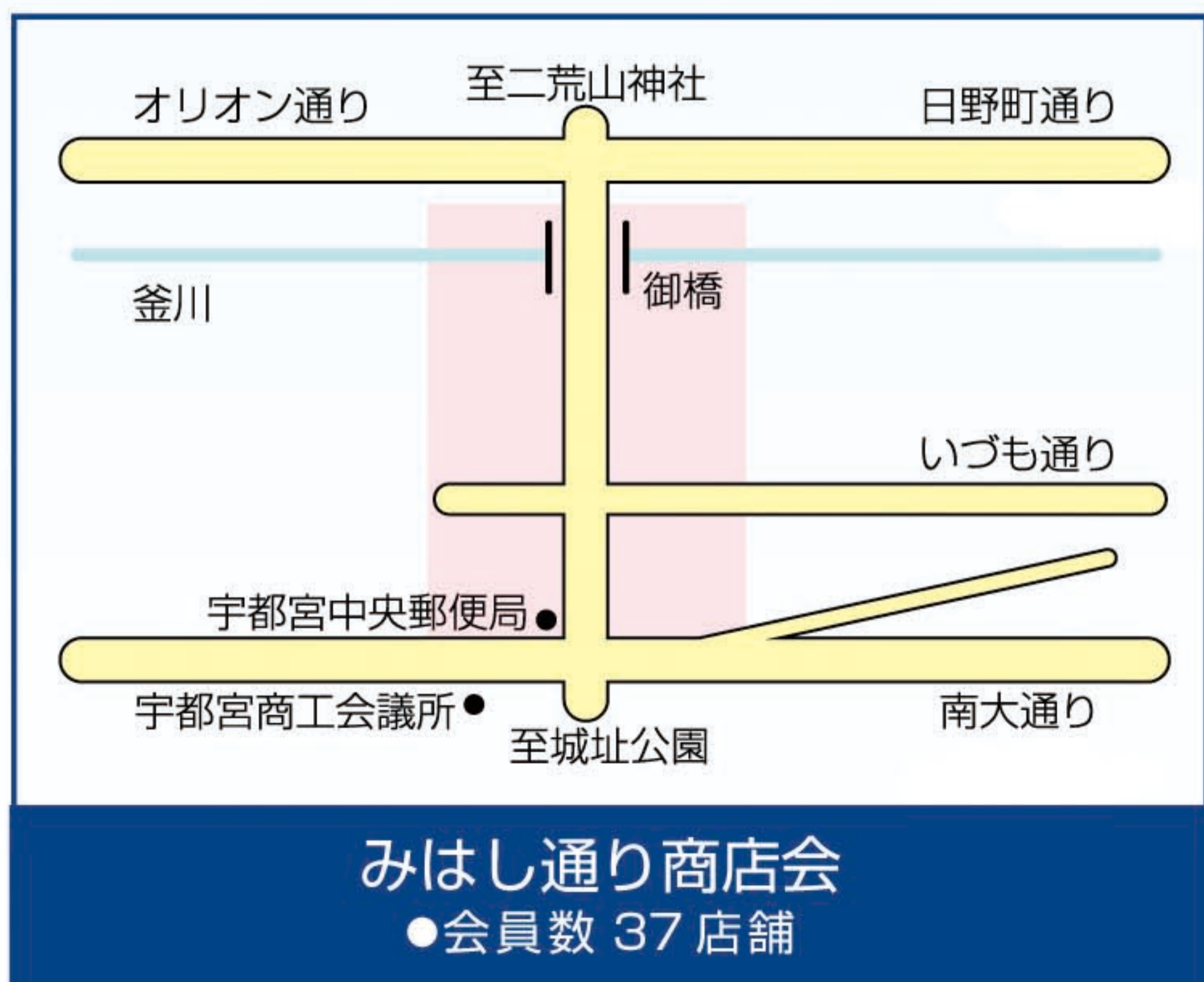
い地図や写真を取り入れるなど、歴史を感じさせる作り方をしています」

新聞に取り上げられたこともあり、お客様には喜んでいただけているとのこと。一人で何部も持って行く人も珍しくないそうです。

マップを作ることで、商店会内のコミュニケーションも、より密になり、二重・三重の効果を挙げているようです。

平成17年に街路整備が終了し、それまでとはがらりと雰囲気が変わった、みはし通り。以前からあった老舗店舗（いちばん古い伊香保旅館は、なんと明治11年創業！）、その後に出店した店舗とが混在し、独特の街並みを作りだしています。

「旅館や飲食店、美容室など、さまざまな業種が軒を連ねています。戦前は税務署があつたり憲兵隊詰所が近くにあるなど、準官庁街。戦後には済生会宇都宮病院のおかげで、一日に三千人くらいの人通りがありました」



みはし通り商店会
会長 小林 皓二さん

病院移転後に大きく減った通行量ですが、最近は若者向けの飲食店が増えたり、黄ぶなバスが走るなど、徐々に良い方向へ向かっているようです。「こういう時代ですから、どうしても空き店舗が出ます。今後は魅力アップを心がけ、なるべく空き店舗を減らして行きたい。中心商業地でイベントを行っても、こちらまで人が流れてこないこともありますから、人を呼び込める商店街になっていきたいですね」

